

奄美図書館だより

平成26年2月1日発行
第272号(2月号)
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 0997-52-0244

HP address: <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address: ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

奄美群島日本復帰記念シンポジウム

12月25日は、奄美群島が約8年間の行政分離から、日本に復帰した記念日です。奄美図書館では、毎年この日に「奄美群島日本復帰記念講演会」を開催しています。

本年度はちょうど復帰60周年に当たり、各地で様々な記念事業を行った5人の青年をパネラーに、「復帰の力を未来へ」というテーマの下、平成25年12月25日(水)にシンポジウムを開催しました。そして、今後の奄美群島の活性化につなげていきたいという意味で、活動をして学んだこと、復帰運動の意義を今後どのように生かしていくのかということについて、発表していただきました。

「NPO法人アマミーナ」理事長である上堀内ちあきさんは、日本復帰をテーマに川柳を募集した、句集『奄美・ワールド川柳 復帰 de 六十選』の取組、社団法人奄美大島青年会議所会員である南野野さんは、「伝える・つながる・日本復帰60」というイベントの開催、奄美群島青年団連絡協議会会長である保池穂好さんは、音楽祭「夜ネヤ 島んちゅ リスペクチュ」の開催、「結人プロジェクト・チャレンジャー」白畑瞬さんは、カヌーによる沖縄から奄美群島の縦断、大和中学校教諭の野口淑子さんは、奄美のすばらしさを伝える郷土教育について発表され、次の世代に語り継ぐことの大切さ、奄美のよさを日本全国・世界に発信することの必要性などについて考える機会を提供していただきました。

今回の提言や参加者から寄せられた意見等を踏まえ、奄美図書館でも今後、復帰運動の歴史を風化させることなく、その意義を将来へと継承し、さらには、奄美群島の発展につなげていくお手伝いをしていきたいと考えています。



奄美先人の知恵 大島紬を発展させた人々

大島紬が産業として発展したのは、明治に入ってからのことです。それは、昔から伝わっていた「地機」が、永江伊栄温によって能率の高い「高機」に改善されたからだと言えます。従来の地機は全身の力を必要とし、女性にとっては重労働だったのです。また、慣れていないと、機の引き方の加減で糸が切れたり、折り目が揃わなかったりするなど、いろいろな弊害がありました。島の人々の発展のために尽くしたいと考えていた伊栄温は、この織機を改善し、大島紬の生産に画期的な進歩をもたらしたのです。

一方、大島紬の文様も、従来の縞模様や格子模様などの幾何学的な柄から、花や鳥などの曲線を織り出す方法が考えられていきました。絵の上に糊づけした絹糸を並べて墨で印をつけ、手括りで緋を作り、染色して絵を織り出す方法を、登山伊次郎が苦心して研究し、考案したのです。

しかし、経糸と緯糸でいる線をつくるには、いく通りにも染め分けなければならず、その並べ方にも複雑な計算が必要でした。これまでに身につけた技術をすべて使っても、満足のいく文様を織ることのできなかった永江伊栄温は、仕事場にふらっとやってきた、おいの昇治太郎にそのことを話しました。

すると、二、三日たって、治太郎がにこにこ笑いながらやってきます。初めに白い糸だけで織り、その上に墨で好きな文様を書く。文様を書いたら、経糸と緯糸をほぐして一本の糸にもどし、新しい白糸の束に重ねて、墨のついたところをくくって染めると、同じ文様を好きな分だけつくれると言うのです。また、下絵を紙に書いて、それを版木に彫って文様の型をつくり、経糸と緯糸を台の上に並べる。そして、版木に墨をぬって押しつけ、下絵糸をつくる方法まで考えてきたのです。版木さえあれば、いつでも同じ文様の紬がつかれるということです。

丈夫で長持ちする着物から、着る人に喜びを与える美しい文様入りの大島紬は、こうして生まれていきました。

同時に、名瀬では「大島紬同業組合」も結成され、組合が行う厳格な製品検査により、大島紬全体の品質を守り、大島紬の評価が全国で高まっていくようになりました。

これまで、多くの先人から受け継いできた、奄美の貴重な芸術・技術を保つために、そして、新しい大島紬を創り出すために、多くの方が汗を流してきているのです。

今回紹介した内容は、茂野幽著『奄美染織史』、重村斗志乃利著『大島紬誕生秘史』に詳しく記されています。また、永江伊栄温については、奄美群島日本復帰の節目の年に発行されている、『郷土の先人に学ぶ』(県教育委員会発行)という児童・生徒用の副読本にも紹介されています。

ネリヤカナヤ創作童話コンクール 子どもたちの作品をお読みください

第10回(2013年度)ネリヤカナヤ創作童話コンクールで第10回記念大賞・最優秀賞を受賞した作品を鹿児島県立奄美図書館ホームページに掲載しました。ホームページには、第1回からの最優秀賞作品も掲載しています。

また、第1回からのネリヤカナヤ創作童話コンクール応募作品のすべては、鹿児島県立奄美図書館にて製本・保存しており、いつでも閲覧することができます。

そして、ボランティアの方々のご協力により、入賞作品の中から大型紙芝居やおはなし用品に作品化して、学校や親子読書会等での読み聞かせに利用している作品もあります。

すでに、第10回の作品から、第10回記念大賞を受賞した「森のドライブ」を、小宿小学校学童クラブたんばぼと山下洋子さんが大型紙芝居にして、寄贈してくださいました。



なお、第10回(2013年度)ネリヤカナヤ創作童話コンクールの入賞(最優秀賞・優秀賞・佳作)作品を一冊にまとめた「第10回ネリヤカナヤ創作童話コンクール受賞作品集～奄美の小さな童話作家たち～」を、3月上旬に刊行予定です。鹿児島県立奄美図書館で、閲覧・貸出をすることができます。

豊かな風土・自然に抱かれて育った子どもたちのすばらしい想像力・表現力を感じることができる作品ばかりです。ぜひ、ご覧ください。

お知らせ

参加して
みませんか!

あまみならでは学舎 8

○期日 平成26年2月8日(土) 14:00~15:30

○場所 鹿児島県立奄美図書館 4階研修室

○内容 演題「唄半学(シマ唄から学ぶもの)」

講師 唄者 平 久美氏

※ お問い合わせは、鹿児島県立奄美図書館まで。

〒894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町1-1

TEL 0997-52-0244 FAX 0997-52-9634

2月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
2	1	土	おはなしさんぽ 10:30~
	3	月	休館
	5	水	おはなしの森 15:30~
	8	土	あまみならでは学舎 14:00~15:30
	10	月	休館
	12	水	おはなしの森 15:30~
	13	木	青嶺短歌会 13:00~
	14	金	育児サークル「こっちむいて」10:00~
	15	土	あまみ子どもライブラリー 10:00~ 読書会「島にて」10:00~ ろんど文章教室 13:00~
	16	日	奄美郷土研究会 14:00~
	17	月	休館
	19	水	おはなしの森 15:30~
	22	土	大島地区小学校国語教育研究会 13:00~
	24	月	休館
	25	火	休館(整理研修)
	26	水	おはなしの森 15:30~

3月の休館日予告



3日(月)・10日(月)・17日(月)・
24日(月)・25日(火)・31日(月)

今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

はーくしょい
せな けいこ ポプラ社
ぶたがとぶ
佐々木 マキ 絵本館
おさじさんのたび
松谷 みよ子 にっけん教育出版社
水の精とふしぎなカヌー
岡田 淳 理論社
水族館のひみつ
新野 大 PHP研究所
イヌとネコの体の不思議
斉藤 勝司 誠文堂新光社
その他74冊

郷土関係

奄美の風にのせて
湯ノ口 真由美 文芸社
南日本の民族文化誌 10
奄美諸島の民族文化誌
下野 敏見 南方新社
その他10冊

おすすめの本

ふわふわ～白鳥たちの消えた冬～

中山 聖子 福音館書店
ふわふわ、それは白鳥の赤ちゃんの羽毛のこと。物語は、5年生の二人の女の子、香枝と有紗が、公園の湖に白鳥たちをながめに来たところから始まります。主人公・香枝を通して描かれる家族、友達の有紗との関係、クラスメートたちとのつながりなど、香枝を取りまく人間関係をちりばめながら、ストーリーの中心は湖の白鳥たちへと向かっていきます。白鳥をめぐる、様々な登場人物の痛みや思いを感じる事ができる物語です。

一般

ほめる力
齋藤 孝 筑摩書房
世界遺産富士山
白簾 史朗 新日本出版社
勉強するのは何のため?
苦野 一徳 日本評論社
流星ひとつ
沢木 耕太郎 新潮社
その他140冊

小説・随筆

傷
堂場 瞬一 講談社
昭和の犬
姫野 カオルコ 幻冬舎
はなとゆめ
沖方 丁 KADOKAWA
やっぱり、嵯峨野に行こう
瀬戸内 寂聴 扶桑社
賢者は幸福ではなく信頼を選ぶ。
村上 龍 ベストセラーズ
その他21冊

伝え方が9割

佐々木圭一 ダイヤモンド社
ふだんの生活の中で、何かを伝えるとき、言い方一つで相手の受け取り方も違ってくる場合があります。例えば、「ムダな電気を消して」というお願いを、「電気を消せば、星が見えるよ」と言い換えたらどうでしょう。この本には、相手の心に届くような伝え方をするための技術が、わかりやすく書かれています。伝え方のポイントを押さえておけば、不可能なことが可能になり、人生も変わるかもしれない、そんな明るい希望が持てる本です。